

第4章

樹林地の現況と変遷

第4章 樹林地の現況と変遷

4-1 樹林地の現況と変遷

(1) 樹林地の現況

・ 300 m²以上のまとまりがある樹林地 1,460 箇所, 約 212.4ha

300 m²以上のまとまりがある樹林地について、種類別・規模別に集計したのが表 4-1 であり、その割合は、図 4-1 に示したとおりである。

市全域で 300 m²以上の規模のまとまった樹林地は 1,460 箇所, 約 212.4ha (2,123,775 m²) 分布している。

規模別の面積についてみると、図 4-1 に示したように 10,000 m²以上の樹林地 (15 箇所) が、約 34.2%の約 72.6ha (725,696 m²) 分布している。次に面積が広いのは、1,000~3,000 m²の樹林地 (272 箇所) で、全体の約 20.3%の約 43.1ha (431,146 m²) 分布している。

樹林地の種類別に見た箇所数の構成を図 4-2 に示した。最も箇所数が多いのは、「住宅・事務所などの植栽」で 522 箇所であり、次いで「公共施設の緑」で 334 箇所分布している。「山林・平地林」は 118 箇所あり、500~3,000 m²の規模のものが多くなっているが、10,000 m²を超える樹林地は 15 箇所分布しており、「公園の緑」が最も多くなっている。「屋敷林」についても「山林・平地林」と同様に、500~3,000 m²に多く分布している。これらの種類別の面積の構成は図 4-3 に示したとおりである。

表 4-1 樹林地の種類別・規模別現況

上段:箇所数
下段:面積(m²)

	屋敷林	住宅・事務所等の植栽	山林・平地林	公園の緑	公共施設の緑	民間施設の緑	社寺林	合計
300～500m ² 未満	30 12,110	304 116,052	22 9,329	49 19,052	146 56,295	54 21,563	19 7,463	624 241,863
500～1000m ² 未満	43 31,231	164 110,262	31 21,434	38 24,764	111 77,293	67 44,242	12 9,316	466 318,542
1000～3000m ² 未満	39 63,395	50 76,096	42 69,642	30 46,113	59 90,978	45 70,292	7 14,631	272 431,146
3000～5000m ² 未満	6 22,261	4 15,252	10 37,465	9 33,286	9 34,840	9 34,840	3 11,100	50 189,044
5000～10000m ² 未満	7 46,514	0 0	9 59,177	5 31,267	7 45,541	5 34,985	0 0	33 217,484
10000m ² 以上	0 0	0 0	4 88,729	5 515,483	2 49,129	3 46,765	1 25,590	15 725,696

合計	125 175,511	522 317,662	118 285,775	136 669,965	334 354,076	183 252,687	42 68,100	1,460 2,123,775
----	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	--------------	--------------------

300m ² 未満	76 9,492	18,101 835,718	34 4,894	761 55,522	2,128 155,344	1,325 87,507	191 12,848	22,616 1,161,326
----------------------	-------------	-------------------	-------------	---------------	------------------	-----------------	---------------	---------------------

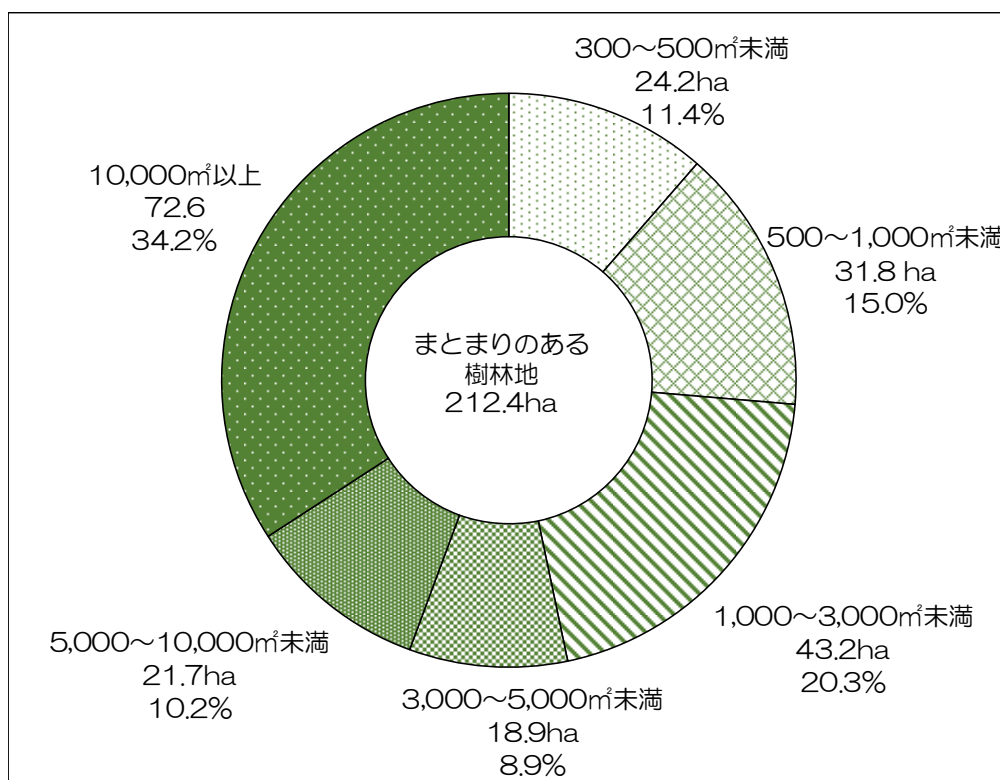


図 4-1 樹林地の規模別面積

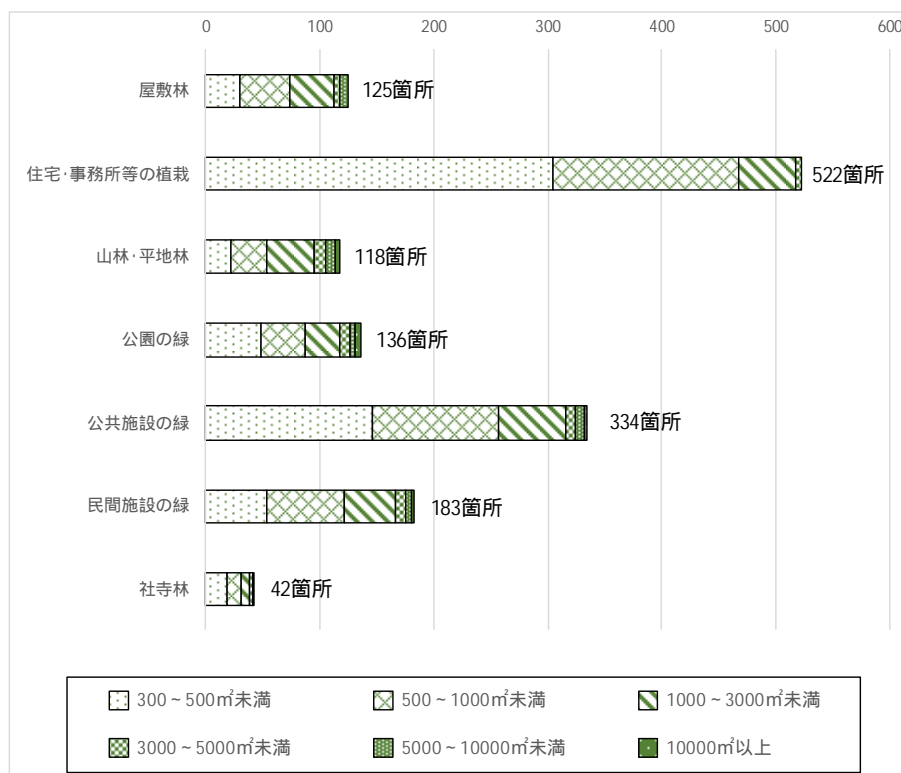


図 4-2 樹林地の規模別面積

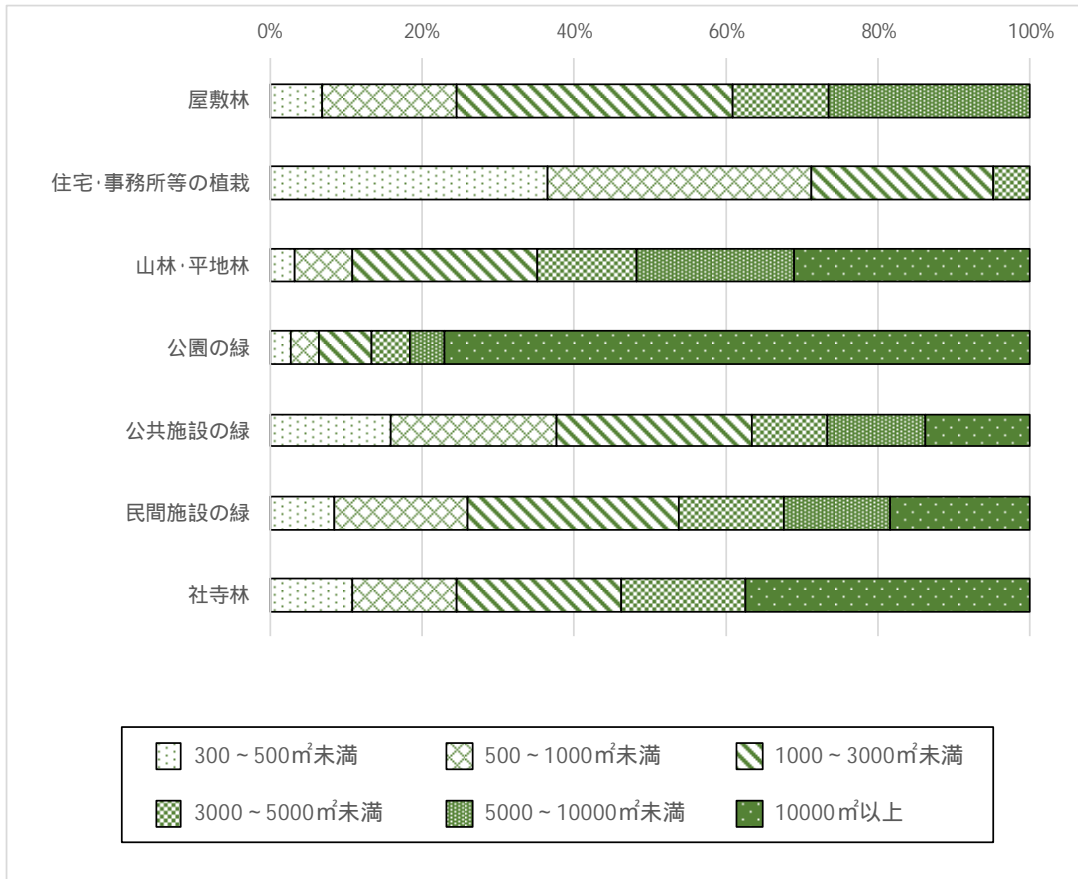


図 4-3 樹林地の種類別・規模別面積構成

丁目別及び町別の分布は、図 4-4 及び図 4-5 に示したとおりであり、「八雲台」、「仙川町」、「多摩川河川敷」を除く町で 30 箇所以上のまとまった樹林地が分布している。

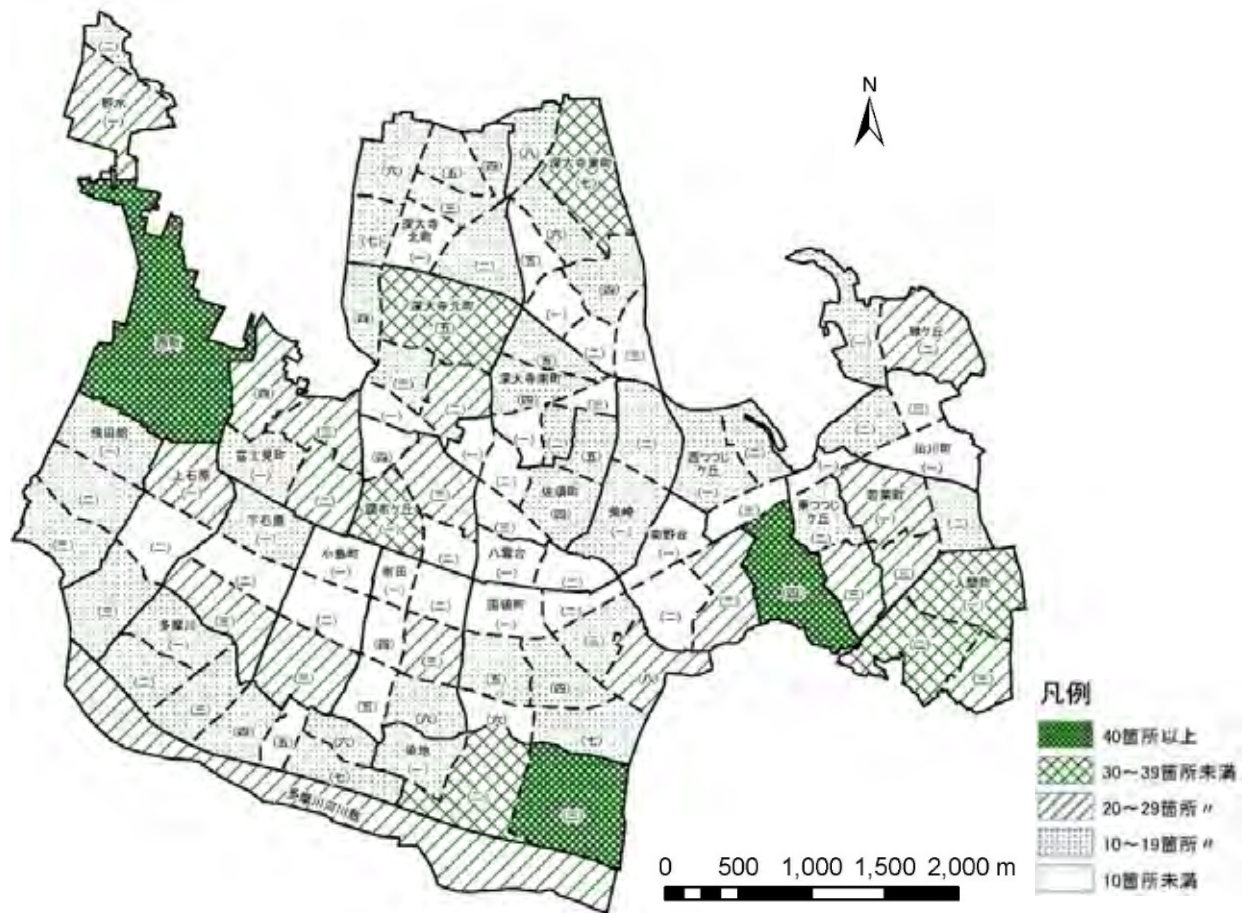


図 4-4 丁目別樹林地の箇所数

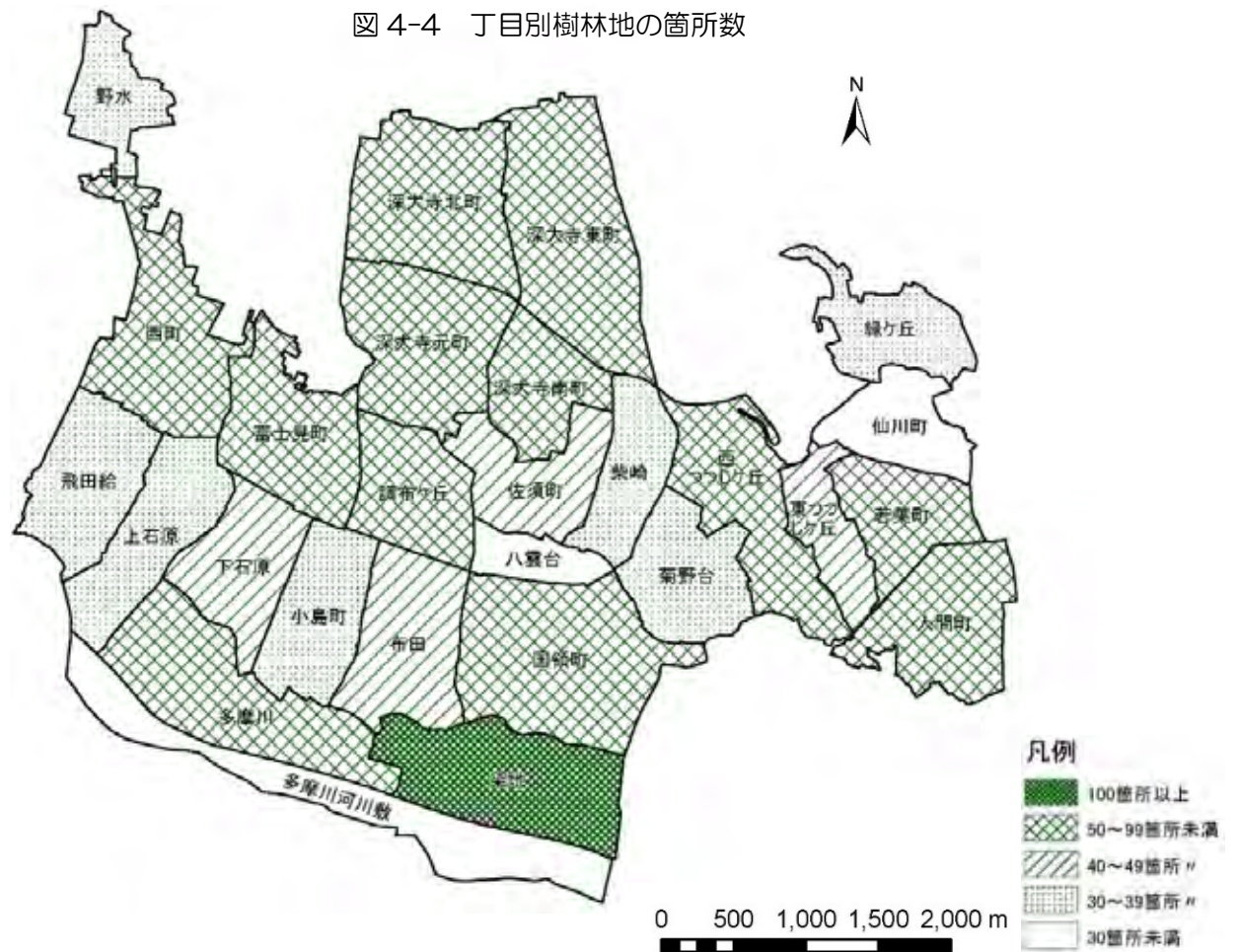


図 4-5 町別樹林地の箇所数

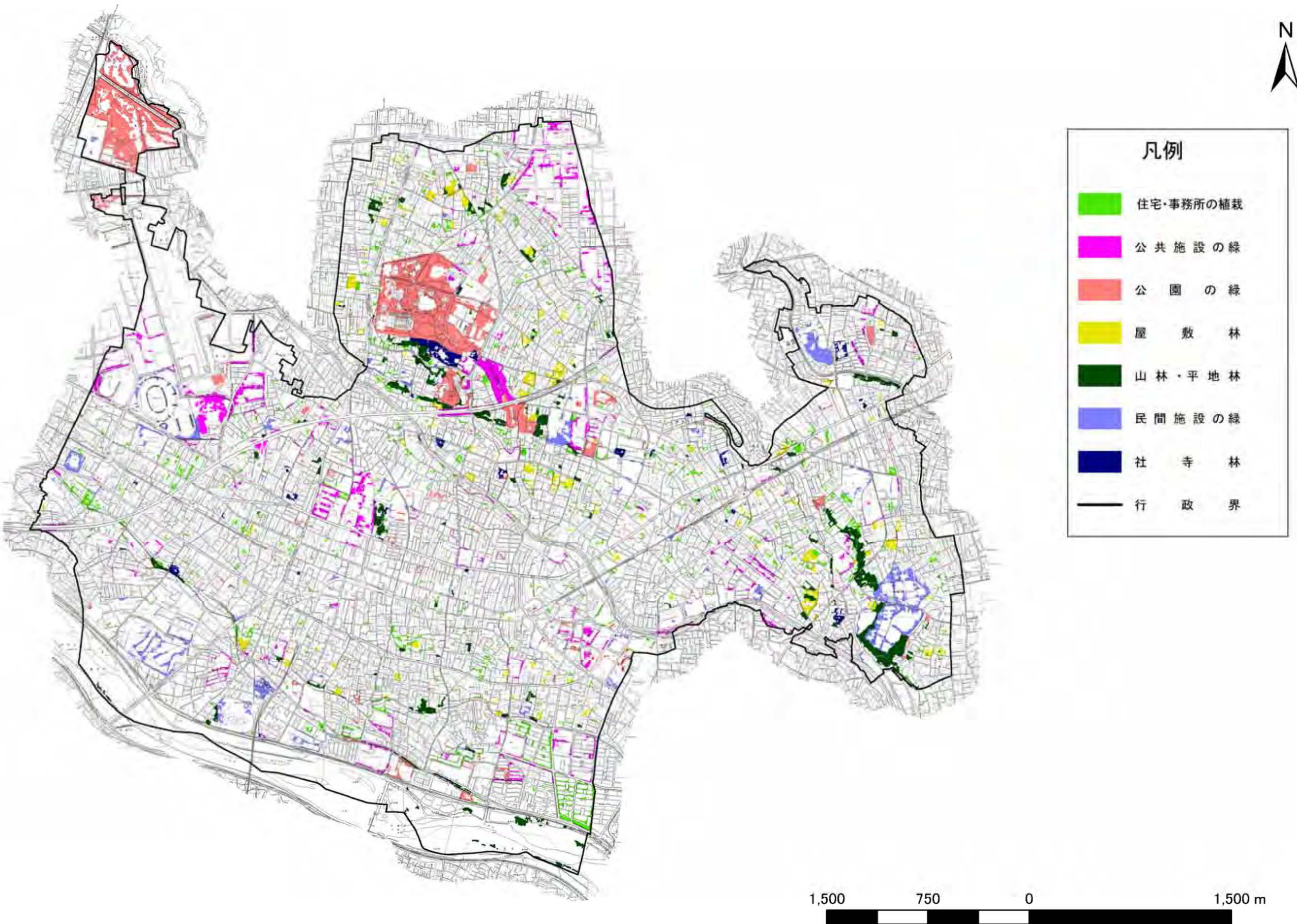
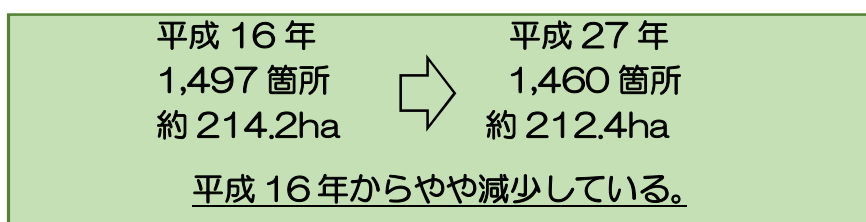


図 4-6 まとまりのある樹林地 (300 m²以上) 分布

(2) 樹林地の変遷



市全体で平成 16 年から平成 27 年にかけて、300 m²以上のまとまりがある樹林地の変化状況は、平成 16 年に 1,497 箇所、約 214.2ha (2,141,925 m²) から平成 27 年に 1,460 箇所、約 212.4ha (2,123,775 m²) へ、箇所数で 37 箇所、面積で約 1.8ha (18,150 m²) とやや減少している。

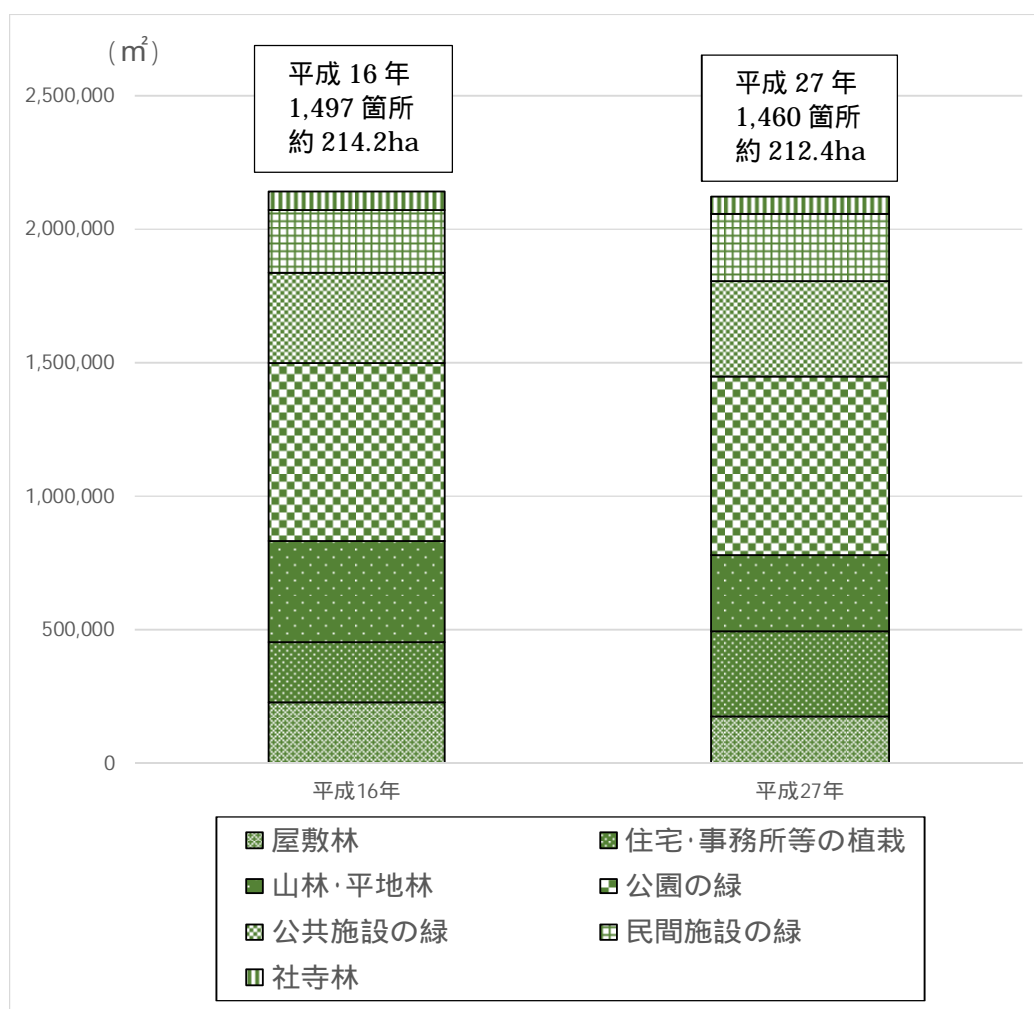


図 4-7 緑被地及び緑被率の変遷

内訳としては、特に、山林・平地林（-96 箇所，約 9.56ha（95,604 m²））の減少が著しく、このほか屋敷林（-24 箇所，約 5.31ha（53,147 m²））、公園の緑地（-65 箇所，約 0.56ha（5,637 m²））も減少している。

一方、住宅・事務所等の植栽（+113 箇所，約 9.28ha（92,840 m²））や公共施設の緑（+18 箇所，約 1.4ha（14,179 m²））、民間施設の緑（+9 箇所，約 1.8ha（17,786 m²））、社寺林（+8 箇所，約 0.02ha（158 m²））が増加しており、全体的にはわずかな減少にとどまっている。宅地化等の開発により、山林・平地林の減少が顕著であるが、住宅・事務所の植栽等の緑化によって、まとまった樹林地が増加していることもうかがえる。

表 4-2 300 m²以上まとまりがある樹林地の変遷

区分	平成16年		平成27年		増減	
	箇所数	面積(m ²)	箇所数	面積(m ²)	箇所数	面積(m ²)
屋敷林	149	228,658	125	175,511	-24	-53,147
住宅・事務所等の植栽	409	224,822	522	317,662	113	92,840
山林・平地林	214	381,379	118	285,775	-96	-95,604
公園の緑	201	664,328	136	669,965	-65	5,637
公共施設の緑	316	339,897	334	354,076	18	14,179
民間施設の緑	174	234,901	183	252,687	9	17,786
社寺林	34	67,942	42	68,100	8	158
合計	1,497	2,141,925	1460	2,123,775	-37	-18,150

丁目別の300㎡以上のまとまりのある樹林地の変遷では、染地などの公共団地の植栽、西町の味の素スタジアムやサッカー場などの運動施設脇の樹木などが増加しており、多摩川河川敷では公園の樹木植栽などで増加しているものと考えられる。

こうしたまとまりのある樹林地は、多摩川、野川などの河川や崖線樹林との繋がりによって緑のネットワークがつけられ、緑の回廊として野生の生き物の貴重な生息・移動空間ともなる。今後もまとまりのある緑の連続性に十分留意して、緑の保全・緑化を進めていく必要がある。



図 4-8 町丁目別樹林地の変遷

4-2 崖線樹林地の現況と変遷

(1) 崖線調査における最近の動向

調布市では、緑の基本計画の全体計画に掲げた施策、調布市を特徴づける骨格的な水と緑の保全に基づき、崖線の保全管理を進めており、概ね10年後の将来を見据えた崖線樹林地の保全管理計画を策定することを目的として平成26年度より、市内の崖線調査を行っている。以下の図4-9に示したように、平成26年度は国分寺崖線（若葉町・入間町）、平成27年度は仙川崖線と布田崖線（上石原地区・下石原地区）を実施している。また、崖線樹林地の自然環境調査を実施している国分寺崖線（入間町2丁目）、植生調査を実施している国分寺崖線（深大寺元町2丁目、3丁目、佐須町5丁目）についても示した。

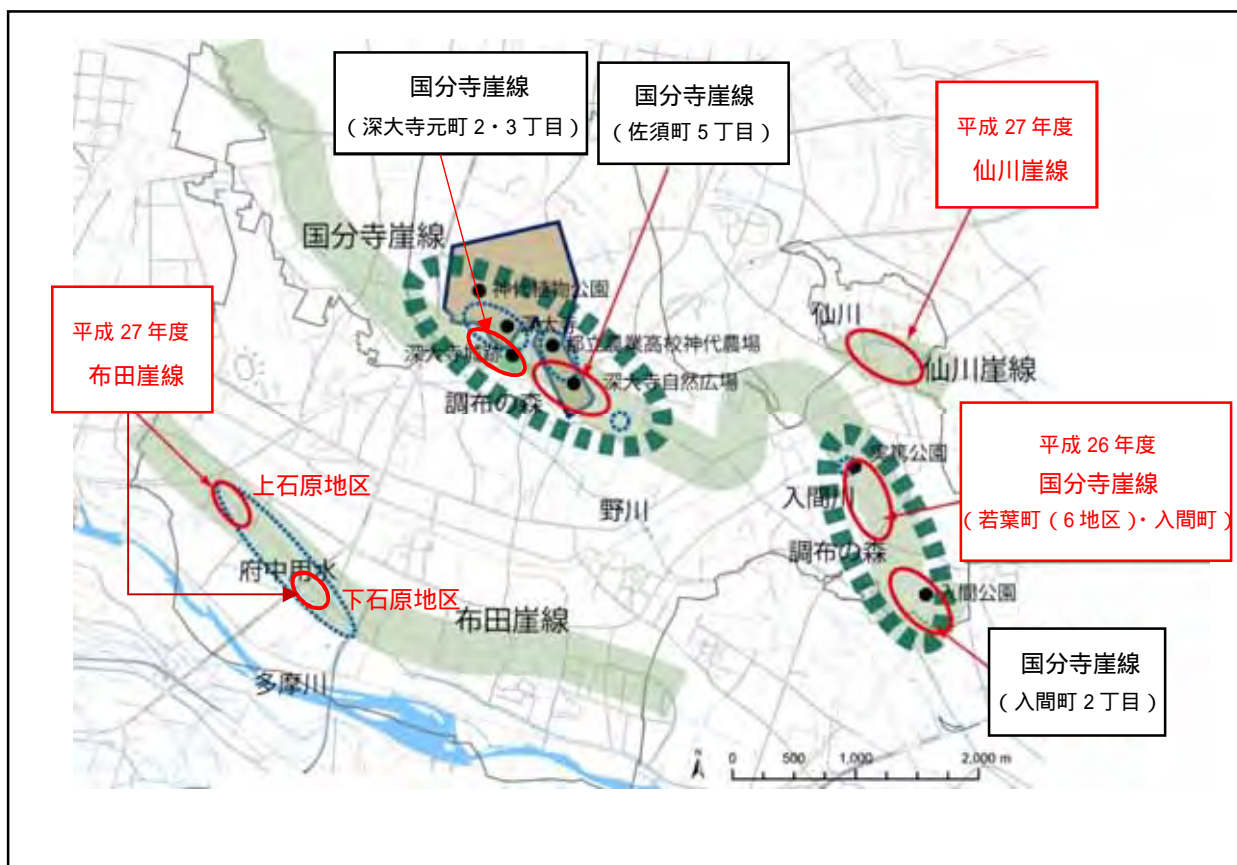


図 4-9 崖線調査における最近の動向

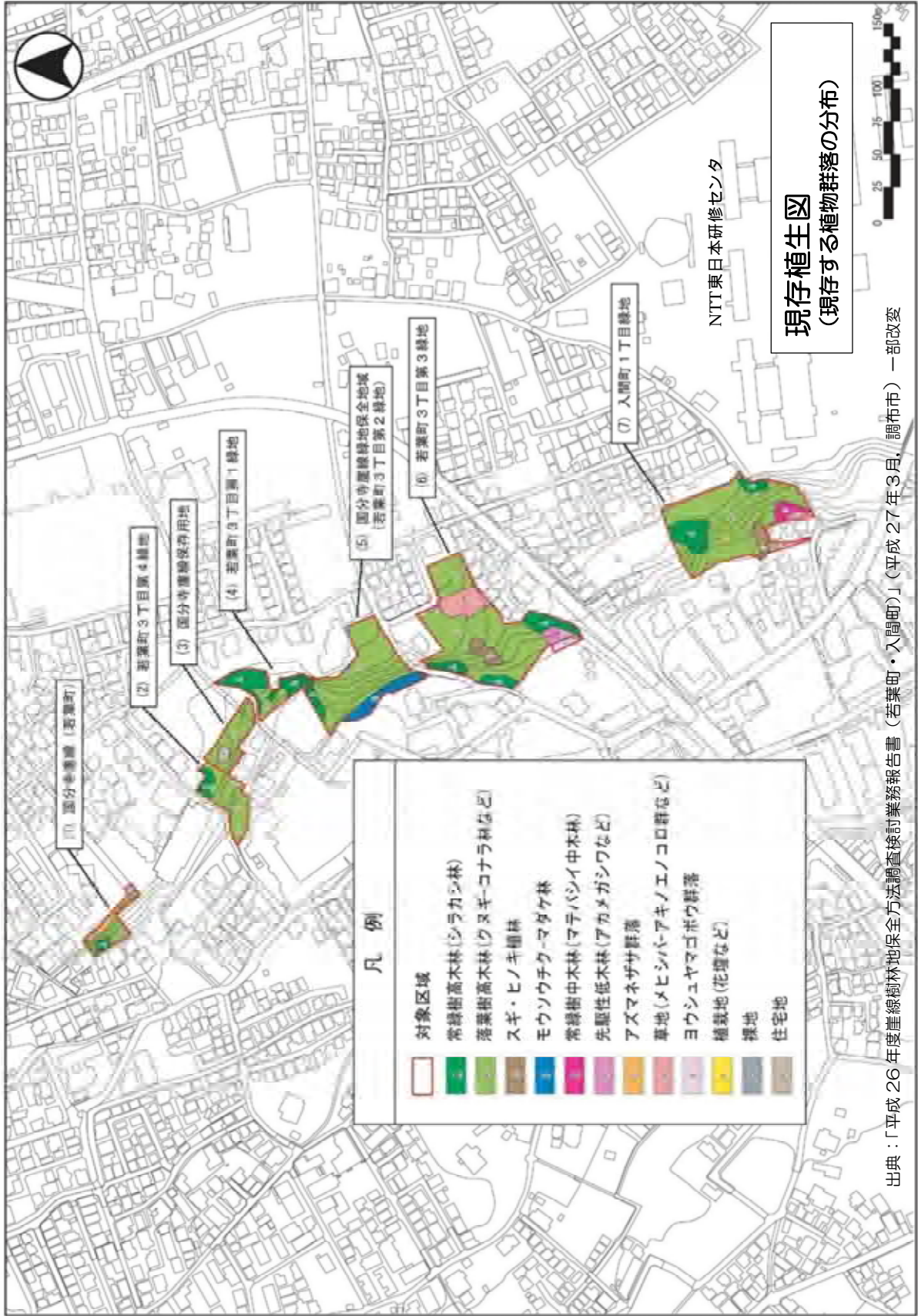
①平成 26 年度崖線樹林地保全方法調査検討業務報告書（若葉町・入間町），調布市崖線樹林地の保安全管理計画書（若葉町・入間町）

平成 26 年度には，若葉町から入間町に位置する調布市管理地にあたる 7 地区の国分寺崖線において，概ね 10 年後の将来を見据えた崖線樹林地の保安全管理計画を策定することを目的として崖線の調査を行っている。以下に各地区の植生について示した。

表 4-3 植生の出現区分一覧

対象区域	現存植生	林床植生
(1) 国分寺崖線（若葉町）	<ul style="list-style-type: none"> ・常緑樹高木林（シラカシ林） ・落葉樹高木林（クヌギ・コナラ林など） ・アズマネザサ群落 ・裸地 	<ul style="list-style-type: none"> ・アズマネザサ型 ・常緑低木 - 無型 ・人工裸地
(2) 若葉町 3 丁目第 4 緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・常緑樹高木林（シラカシ林） ・落葉樹高木林（クヌギ・コナラ林など） ・アズマネザサ群落 	<ul style="list-style-type: none"> ・アズマネザサ型 ・常緑低木 - 無型
(3) 国分寺崖線保存用地	<ul style="list-style-type: none"> ・落葉樹高木林（クヌギ・コナラ林など） ・住宅地 	<ul style="list-style-type: none"> ・常緑低木 - 無型
(4) 若葉町 3 丁目第 1 緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・常緑樹高木林（シラカシ林） ・落葉樹高木林（クヌギ・コナラ林など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・落葉低木 - 草本型 ・無型（落葉の堆積または裸地）
(5) 国分寺崖線緑地保全地域（若葉町 3 丁目第 2 緑地）	<ul style="list-style-type: none"> ・常緑樹高木林（シラカシ林） ・落葉樹高木林（クヌギ・コナラ林など） ・モウソウチク - マダケ林 	<ul style="list-style-type: none"> ・アズマネザサ型 ・常緑低木 - 無型 ・無型（落葉の堆積または裸地） ・モウソウチク型
(6) 若葉町 3 丁目第 3 緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・常緑樹高木林（シラカシ林） ・落葉樹高木林（クヌギ・コナラ林など） ・スギ・ヒノキ植林 ・先駆性低木林（アカメガシワなど） ・草地（メヒシバ・アキノエノコロ群など） ・ヨウシュヤマゴボウ群落 ・植栽地（花壇など） ・裸地 	<ul style="list-style-type: none"> ・アズマネザサ型 ・先駆性低木型 ・草本型 ・無型（落葉の堆積または裸地） ・人工裸地
(7) 入間町 1 丁目緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・常緑樹高木林（シラカシ林） ・落葉樹高木林（クヌギ・コナラ林など） ・スギ・ヒノキ植林 ・常緑樹中木林（マテバシイ中木林） ・草地（メヒシバ・アキノエノコロ群など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・アズマネザサ型 ・常緑低木 - 草本型 ・常緑低木 - 無型 ・落葉低木 - 草本型 ・草本型 ・無型（落葉の堆積または裸地）

出典：「平成 26 年度崖線樹林地保全方法調査検討業務報告書（若葉町・入間町）」（平成 27 年 3 月，調布市）



凡例

対象区域	常緑樹高木林(シラカシ林)
	落葉樹高木林(クヌギ-コナラ科など)
	スギ・ヒノキ植林
	モウソウチク-マダケ林
	常緑樹中木林(マツ/バシ/中木林)
	先駆性低木林(アカメカシワなど)
	アズマネザサ群落
	草地(メヒシハ-アキノエノコロ群など)
	ヨウシュヤマゴボウ群落
	植栽地(花壇など)
	裸地
	住宅地

図4-10 国分寺崖線（若葉町・入間町）現存植生図

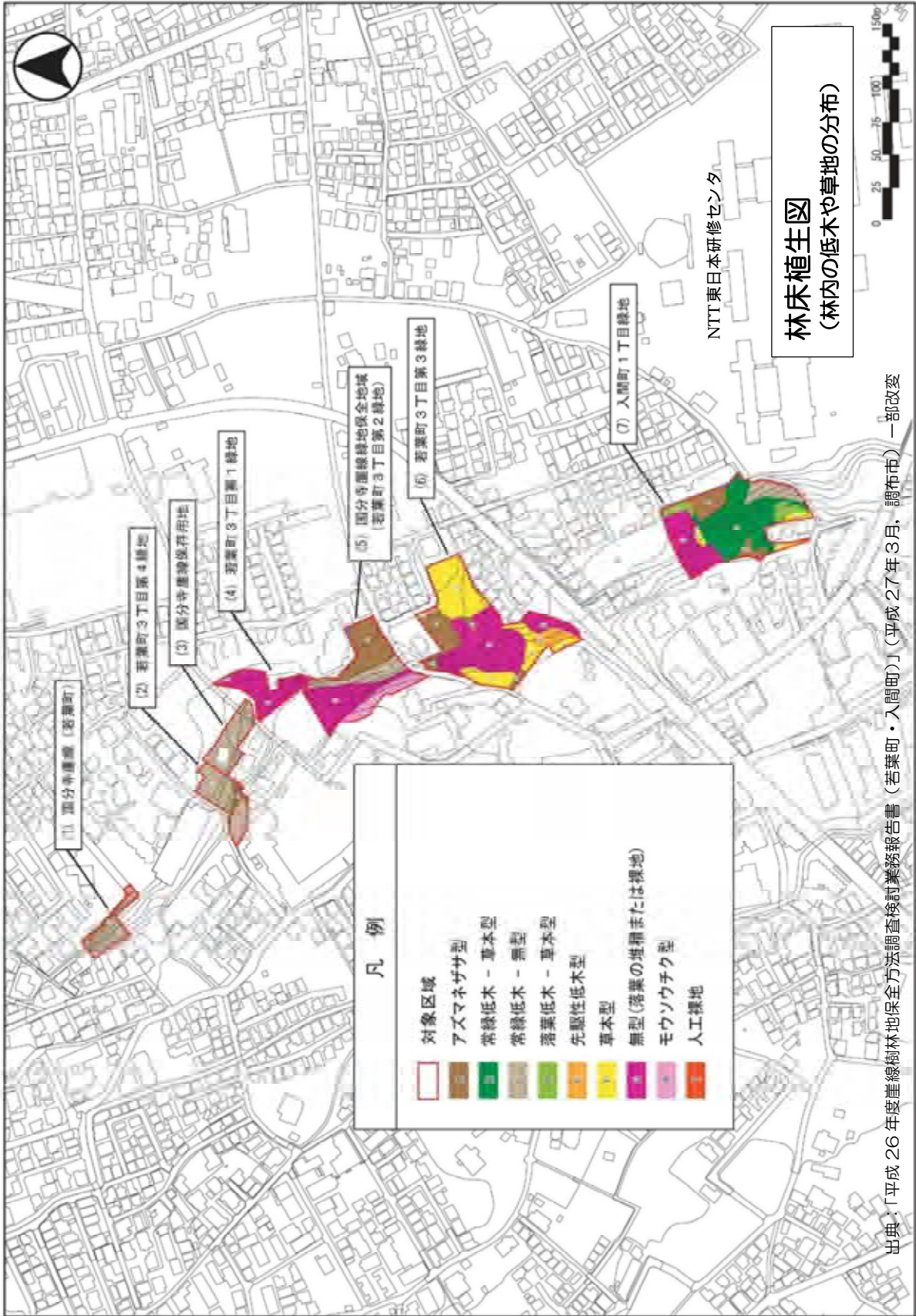
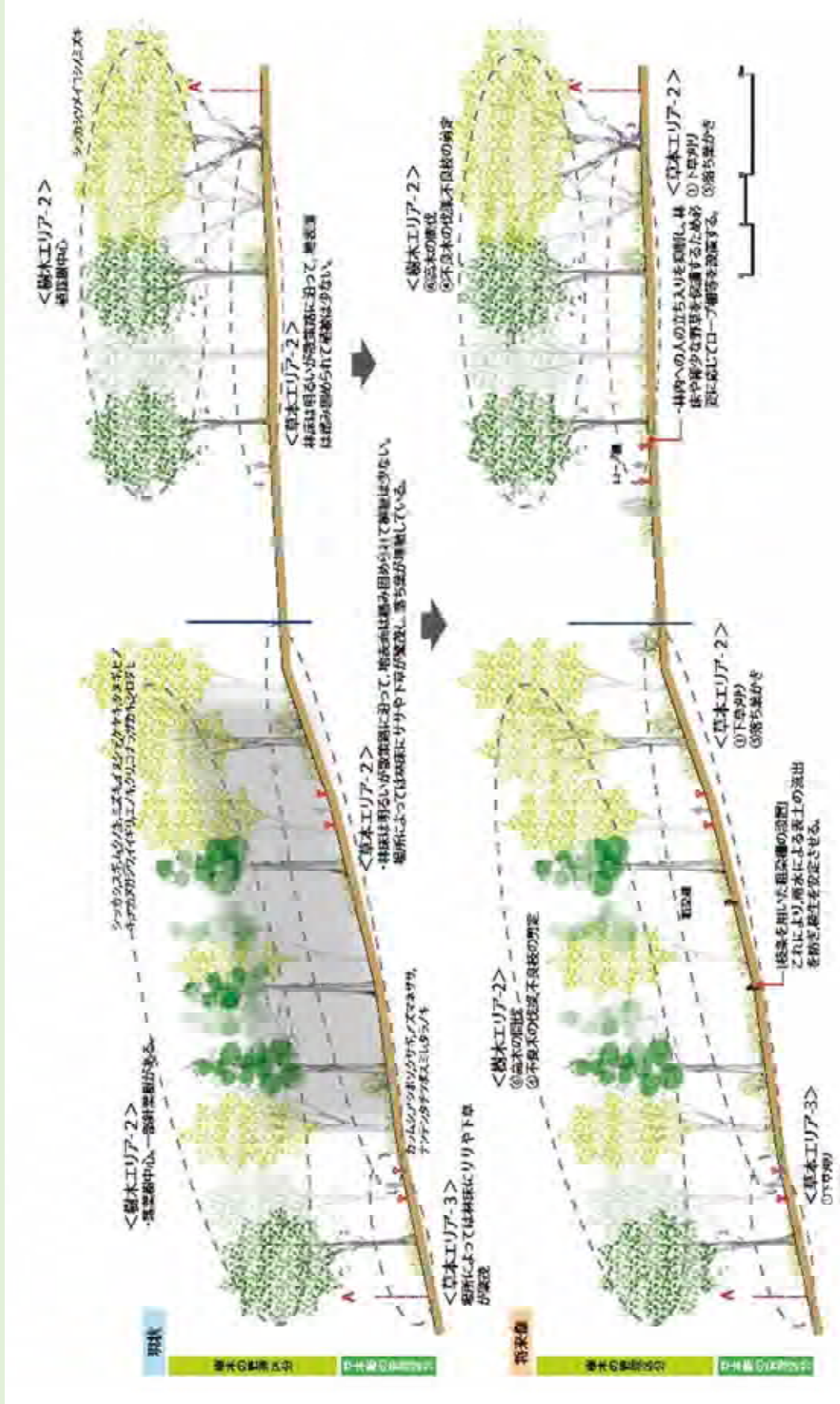


図 4-11 国分寺崖線（若葉町・入間町）林床植生図

国分寺崖線（若葉町3丁目第3緑地）の将来像



出典：「平成26年度崖線樹林地保全方法調査検討業務報告書（若葉町・入間町）」（平成27年3月，調布市）一部改変

図4-12 国分寺崖線（若葉町3丁目第3緑地）将来像

【国分寺崖線の7地区の保全管理計画】

—基本方針「利用の方針」・「保全の方針」—

【国分寺崖線(若葉町)】

- 利用の方針** ・全体として急こう配であり、崩壊跡もみられることから閉鎖的な管理とする。
保全の方針 ・継続的な植生管理を行い周辺住民の住環境(特に、南西側に位置する民家との隣接部に留意しつつ境界沿いを重点的に行う)の保全に配慮していく。

【若葉町3丁目第4緑地】

- 利用の方針** ・伐開間もない環境にあり、林床は貧弱で、保護の観点から、人の立ち入りは現状抑制的な管理とする。
保全の方針 ・コナラ、クヌギなどが優占する落葉樹主体の明るい雑木林としての保全を目指す。

【国分寺崖線保存用地】

- 利用の方針** ・住宅が一体的に取り込まれている敷地であり、窪地もみられることから閉鎖的な管理とする。
保全の方針 ・継続的な植生管理を行い周辺住民の住環境の保全に配慮していく。
・隣接する生産緑地との境界付近に連なる落葉樹主体の明るい雑木林としての保全を目指す。

【若葉町3丁目第1緑地】

- 利用の方針** ・子どもの遊び場の要素やにぎやかさも少しある散策路で、通り道でもある。市民と行政との協働のもと、利用者が快適に過ごせる明るい広場としての利用を目指す。
保全の方針 ・夏には子供の昆虫採集の場所でもあり、小動物と共生し自然とふれ合える環境を目指す。

【国分寺崖線緑地保全地域(若葉町3丁目第2緑地)】

- 利用の方針** ・市民と行政との協働のもと、武蔵野の雑木林、落葉樹主体の自然とふれ合える環境を目指す。
保全の方針 ・ササ原は、自然観察会のフィールドとしても大切であり、保護の観点から人の立ち入りは一定程度抑制的な管理とする。

【若葉町3丁目第3緑地】

- 利用の方針** ・市民と行政との協働のもと、雑木林らしい草花を楽しめ、利用者が快適に過ごせる環境を目指す。
保全の方針 ・夏、涼を求めて訪れるような里山的な森の保全を目指す。

【入間町1丁目緑地】

- 利用の方針** ・鳥や小動物と共生し自然とふれ合える環境教育の場としていく。
・市民に親しまれる雑木林にする。
保全の方針 ・ゾーニングによる多様性のある雑木林を目指す。
・市民と行政との協働のもと、継続的な管理を目指す。

出典：「平成26年度崖線樹林地保全方法調査検討業務報告書(若葉町・入間町)」(平成27年3月, 調布市)

②平成 27 年度崖線樹林地保全方法調査検討業務報告書（仙川崖線・布田崖線），
調布市崖線樹林地の保全管理計画書（仙川崖線・布田崖線）

平成 26 年度に引き続き，仙川崖線，布田崖線（上石原地区，下石原地区）の保全管理計画をまとめている。

【仙川崖線】

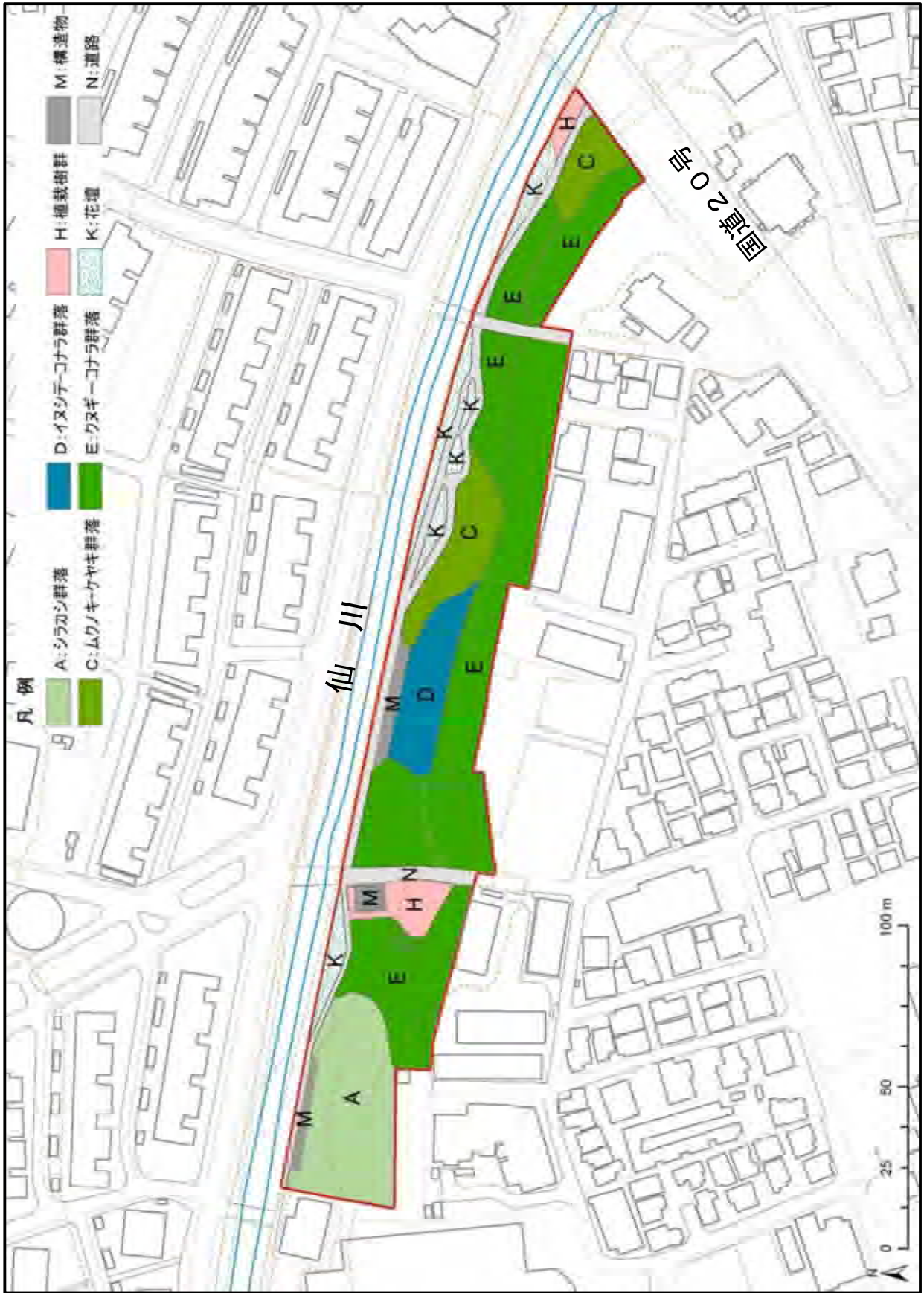
仙川崖線では，クヌギやコナラ，ムクノキ，ケヤキなどの落葉広葉樹林に広く覆われ，西側にはシラカシなどの常緑広葉樹がみられる。仙川沿いの遊歩道には花壇が設置されており，散歩や散策する市民に利用されている。

【布田崖線（上石原地区）】

上石原地区は，斜面部にケヤキやムクノキを主体とした落葉広葉樹林が広がり，南東側の河川部の斜面はスタジイなどの常緑広葉樹がみられる。このような樹林の林縁部には草地が広がり，中央には一部モウソウチクなどの竹林がみられる。

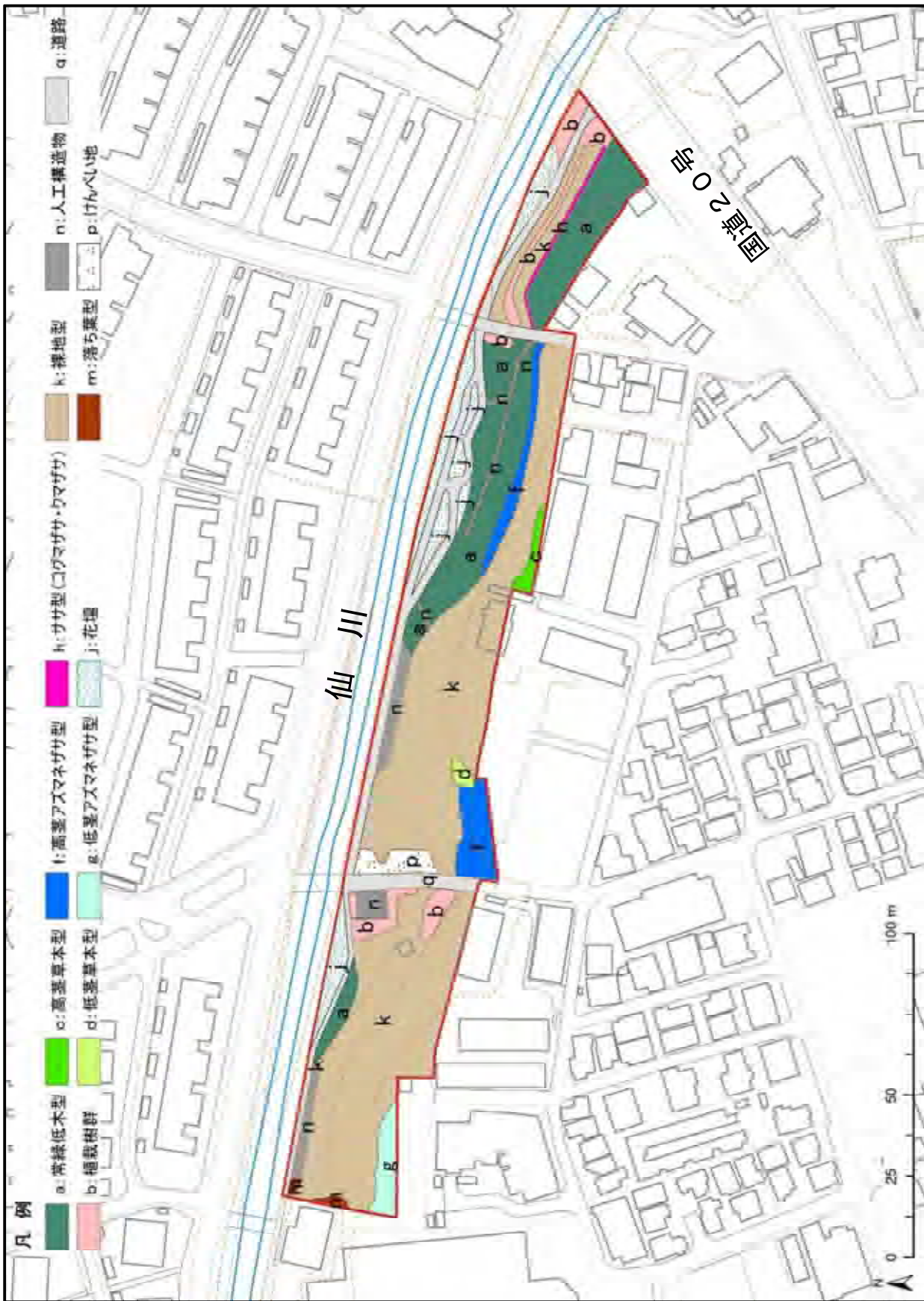
【布田崖線（下石原地区）】

下石原地区は，東側にケヤキやムクノキを主体とした落葉広葉樹林が広がり，西側にはシラカシなどの常緑広葉樹がみられる樹林地となっている。



出典：「平成27年度崖線樹林地保全方法調査検討業務報告書（仙川崖線・布田崖線）」（平成28年3月，調布市）一部改編

図4-13 仙川崖線 現存植生図



出典：「平成27年度崖線樹林地保全方法調査検討業務報告書（仙川崖線・布田崖線）」（平成28年3月，調布市）一部改編

図4-14 仙川崖線 林床植生図